
もみたい

闘神自殺

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
もみたい

【Nコード】
N9195Z

【作者名】
闘神自殺

【あらすじ】
おっぱいにかける情熱

深夜のアパート前。

降りしきる雨の中、傘も差さずひとり佇む少年が居た。

電柱の陰に身を寄せ、寒さに震えながら二階の窓を黙って見上げている少年は、みずからの肩を抱き齒を力チ力チ鳴らしている。

「……」

その様子をカーテンの隙間から窺う、寝巻き姿の年若い女性「ミヨ」が沈痛な面持ちで溜息を吐く。

溜息の原因、それはミヨが少年と「義務の上で懇意」にあったからだ。一週間前に母校に來た教育実習生と生徒という間柄……しかし、少年はその関係では満足してくれなかった。

先日の放課後。

「お願いします!! おっぱいをもませて下さい! お願いします!!」

「え……ちょっと、いきなり公衆の面前で何を……」

明日の授業で使う資料の整理を終え職員室に実習の経過を報告に行く途中、教室からいきなり飛び出して來た少年は廊下に額を叩き付け、抑え切れぬ胸の昂ぶりを打ち明けた。

「お願いします! もませて下さい先生の! もーませてください先生! お願いします!!」

「……そ、そんなこと、急に言われても」

妙なテンションで無理難題を突きつけられた女教師は赤面しながら困り果て、立ち尽くしてしまうが、どんなに土下座されようと彼女にも立場がある。当然のごとくソフトにお断りしたのだが……おっぱいとは恐ろしいもので、翌日、どこで嗅ぎ付けたのか、少年は学校から四十kmも離れたアパートまで尾いて來てしまった。

それから少年は六時間も雨の中だ。教師として当然それは心配するが……反面、力では決して敵わぬ異性は恐ろしいとも感じる。

窓の外を警戒しながら、ミヨは少年　「トム」のことを思い返した。

トムは女の子のように繊細な顔立ちをした気の弱そうな小柄な少年で、クラスでは目立たず、かと言えば無視されているわけでもなく、いたって平均的な中学生だが、おっぱい大好きという業を背負っていた。土下座するほど。ストーカーするほど。電柱伝って二階まで押し掛けて来るほど。

「ちょ、ちよつと!？」

窓の外に又ツと現れた人影を見てミヨは仰天した。

トムだ。トム以外にない。ミヨは一瞬恐怖に身を強張らせたが、意を決して窓を開け放つ。

「あ、危ないですよ！　何をしているんですか！」

「ください！　もませて!!」

窓から身を乗り出して助けようとするミヨに対し、トムは電柱にしがみついたまま必死の形相で首を振る。

「こっちに来なさい！」

「いやだ！　もみたい!!」

「ダメです！　いい加減に聞き分けて、降りるかこっちに来るかなさい！」

「もみたい!!」

どんなに説得しても少年の意志は堅い。

もむか死ぬかの瀬戸際にある人間に説得など通じるはずもない。

「……わかった。じゃ、じゃあ、も、もみなさい……!!」

自分の立場よりトムの未来が閉ざされてしまうことを恐れたミヨは、羞恥に唇を噛みながらも、組んだ腕でメロンの玉のように匂い立つ豊かな胸元をギョツと強調した。

トムは勝ったのだ。

やったねトム。先生のおっぱいはどうでしたか？

「富む!!」

おしまい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9195z/>

もみたい

2011年12月28日20時52分発行